

毎日新聞



三島駅南口の土地売却と住民監査請求について市民団体が開いた説明会—三島市南本町の三島市社会福祉会館で

市民団体、監査請求へ

三島駅南口土地売却「安すぎる」

三島市土地開発公社所有の三島駅南口西街区の土地の東急電鉄への売却は適正な価格ではなかったとして、市民団体「三島駅南口の

整備を考える会」の渡辺豊博代表(67)が26日夜、三島市監査委員に30日に住民監査請求をすると明らかにした。市は公社に資本金を全

額出資しており、市長の管理責任を問う。渡辺代表は「価格が安すぎるうえ、東急電鉄への便宜供与もある」としている。

三島市内で26日夜開いた市民説明会で明らかにした。請求によると、公社は昨年8月、同市一番町の三島駅南口の土地約3141平方メートルを約4億168万円、東急電鉄に売却した。売却価格は1平方メートルあたり12万7800円。これに対し、周辺取引価格は1平方メートルあたり約30万円、市民団体による鑑定では1平方メートルあたり約24万円だったという。また1997年に国鉄清算事業

団から公社が購入した価格も下回ると指摘。安価での譲渡は違法な申し立てとしている。また、売却に伴い三島市が支出した、駐輪場改修5000万円▽公衆トイレ整備2500万円▽観光案内所解体など1381万円

は、東急電鉄への不当な便宜供与であると主張。市が新たに消費することになった観光協会と観光案内所の年間358万円の賃料も必要だったと訴える。

この土地について東急電鉄は、鉄骨14階建て・客室約200室のホテルを建設し、2020年4月の開業を目指すと発表している。渡辺代表は「あまりに疑問が多い。監査委員の判断を仰ぎたい」と話した。【石川宏】